

樋口一葉生誕140年
幸田弘子舞台朗読三十五周年
記念特別公演

一葉による一葉 一葉自身が語る一葉の魂

24年という短い生涯に、今も読み継がれる名作を遺して逝った樋口一葉は、明治5(1872)年、東京に生まれました。本名は夏子(戸籍名は奈津)。

麻布、本郷、下谷と転々として、19年、小石川の安藤坂にあった中島歌子の歌塾「萩の舎」に入りますが、20年に長兄が亡くなり、一葉は女戸主になります。そして、22年に父が病死し、一葉は名実共に女戸主となって、一家を支える責任を担いました。24年、半井桃水の指導で小説を書き出したのも生計を助けるためでした。一葉は、21編の小説と3,000首あまりの和歌、そして夥しい量の日記を遺しました。

日記は15歳から始まり、死の直前の秋に終わっています。

こうした日記が遺されたおかげで、私たちは夏子と呼ばれるひとりの利発な少女が、明治を代表する女流作家に成長するまでの心の軌跡をたどることが出来ます。

29年11月23日、24歳の若さで世を去るまでの生涯を、一葉自身の日記、随筆、作品でたどったのが「一葉による一葉」です。

1986年の初演以来、何回か舞台で取り上げてきましたが、今回が紀尾井小ホールでの最後の公演となります。

幸田弘子渾身の舞台、ぜひお聴き逃ししないようお出かけください。

幸田弘子プロフィール

東京生れ。NHK東京放送劇団に入り、放送舞台で活躍。主演した三善晃作曲、音楽詩劇「オンデイズ」は文部大臣賞、イタリア賞大賞を受賞。舞台で古典から現代文学作品までの朗読を続け、1977年から毎年「幸田弘子の会」を開催、樋口一葉を中心に、「源氏物語」や泉鏡花・森鷗外・夏目漱石・瀬戸内寂聴の作品など、古典から現代まで舞台で朗読。舞台朗読という新しい分野を確立した功績に対し、81・82・84年と続けて芸術祭優秀賞受賞。さらに84年度芸術選奨文部大臣賞、95年毎日芸術賞、96年紫綬褒章、02年藤村記念歴程賞受賞。99年より「源氏物語」おくのほそ道」などによる「古典を読む」会の連続公演も開始している。01年から始めた彩の国さいたま芸術劇場(年6回・9年間)での「源氏語り五十四帖」と題した「源氏物語」の原文朗読は、10年3月にグラランドファイナールを迎えた。03年秋の叙勲において旭日小綬章を受賞。最近では、客席とふれあえる小さな会場での朗読会も催している。



幸田弘子



樋口一葉

日時：2012年10月18日(木)～20日(土) 会場：紀尾井小ホール

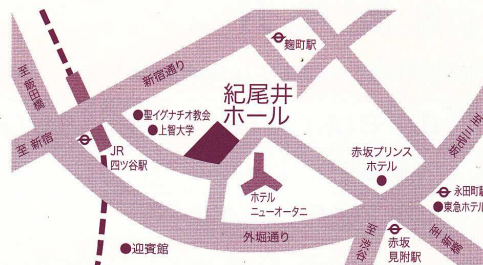
●開演時間 *公演日により、開演時間が異なります。十分ご注意ください。

10/18(木)	10/19(金)	10/20(土)
午後3時	午後2時	午後2時
午後7時	午後7時	

●入場料(全席指定) 前売券：4,000円(学生3,000円)
当日券：4,500円(学生3,500円)

●予約・お問い合わせ 幸田弘子の会
☎(03)3655-2705 (10時～6時、土・日・祝休)

●前売券取扱 紀尾井ホール・チケットセンター
☎(03)3237-0061 (10時～6時、日・祝休)



最寄駅 四ツ谷駅(JR線・丸ノ内線・南北線)徒歩6分
麴町駅(有楽町線)徒歩8分
赤坂見附駅(銀座線・丸ノ内線)徒歩8分
永田町駅(半蔵門線・有楽町線)徒歩8分